

# 安全安心ワーキンググループの進め方及び目標

日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会  
第1回安全安心ワーキンググループ

2017年10月11日(水)14時～17時

# ワーキンググループの全体像

# 各WGの全体的な立てつけ

3つのWGのうち前半2つは”何をするか”の目的に関する討議を行い、日本版NCAAが有すべき機能等を洗い出します。出された意見を後半のWGで”どのように実施するか”の実現に向けた討議を行い次年度のロードマップを成果物にします。

## 各WGの大きな目標と進め方

目的に関する討議

- 日本版NCAAにあったらよい機能、今の課題を鑑みてやるべきことを2つの大きなテーマ毎にグループを作って討議する
- 出来ない理由の討議ではなく、何をすべきかのToBeモデルを討議する想定
- 2つのWGでは**実施すべき事項**がアウトプット(成果物)となる

実現に向けた討議

- 前段で討議した機能ややるべきことを具体化するためには何をすべきか、どのような組織体にして実施すべきかを整理・討議していく
- 関係するステークホルダーを整理することに加え、今後実施主体となるであろう大学の学長クラスにも参加いただき機運を高めていく想定
- マネジメントWGでは、次年度以降誰をどう巻き込み、どのような組織にしていくかの**ロードマップが成果物**となる

### 学業充実WG

スポーツと教育の両分野を跨ぐ統一的なルール作りや学生のキャリア形成に関して議論する。年内2回、年明け1回の計3回実施予定。

### 安全安心WG

各スポーツを跨ぐ統一的なルール作りや事故・事件に対応するマニュアルに関して議論する。年内2回、年明け1回の計3回実施予定。

### マネジメントWG

日本版NCAA創設に向けた組織、人員、会員などのマネジメントや長期・短期における資金計画に関して議論する。年内2回、年明け2回の計4回実施予定。

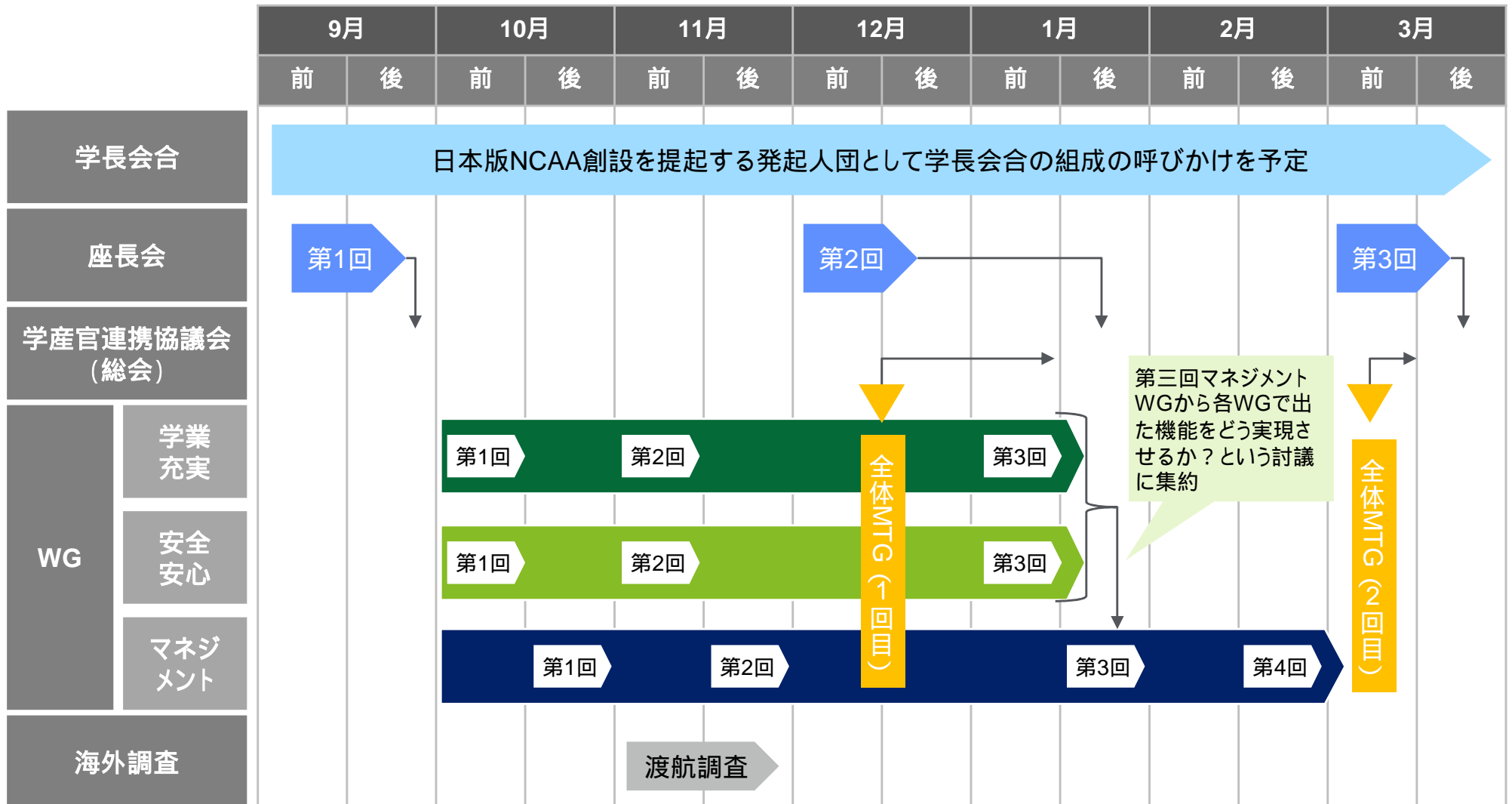
### 学長会合

日本版NCAA創設を提起する発起人団として「学長会合」の組成の呼びかけを予定。

# 本事業の全体像及び進め方の概要

各WGの開催に加え、3WGの座長・副座長を中心とした委員全体MTGの開催(2回)を予定しています。また、日本版NCAA創設を提起する発起人団として学長会合の組成の呼びかけを予定しています。

## 本事業のスケジュール案



# 安全安心WGの目標

# 安全安心WGの目標

昨年度までの検討内容を受けて、本年度は各指針の具体化・課題の抽出を行い、日本版NCAA創設の足掛かりとなる情報を整理するところまで討議をしたいと考えています。

## 安全安心WG全3回を通しての目標

### 現状の課題の理解

学生アスリート及び指導者を取り巻く安全安心の現状・課題について洗い出します

- 学産官の各参加者が現状の学生アスリート及び指導者の安全安心に関する課題を理解し、対策に向けて前向きに討議する状態を目指します

### 課題の優先付け

課題を理解し対応すべき内容の優先付けを実施します

- 課題を理解した上で、安全安心に関する対応策を打ち出し、クリティカルな課題から着手する優先度付けができる状態を目指します

### 対応方針と障壁の理解

マネジメントWGに引き継いで議論すべきテーマをまとめます

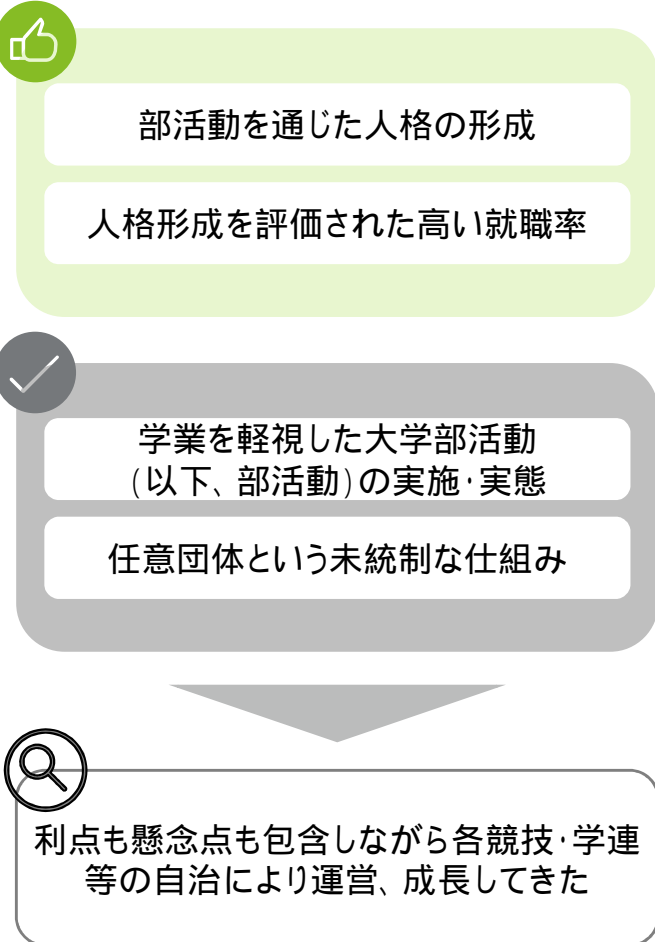
- 推進する上で障壁になり得る論点を抽出し、一部具体化に向けた進め方を討議している状態を目指します

# 時代・環境の変化と安全安心WGの位置づけ

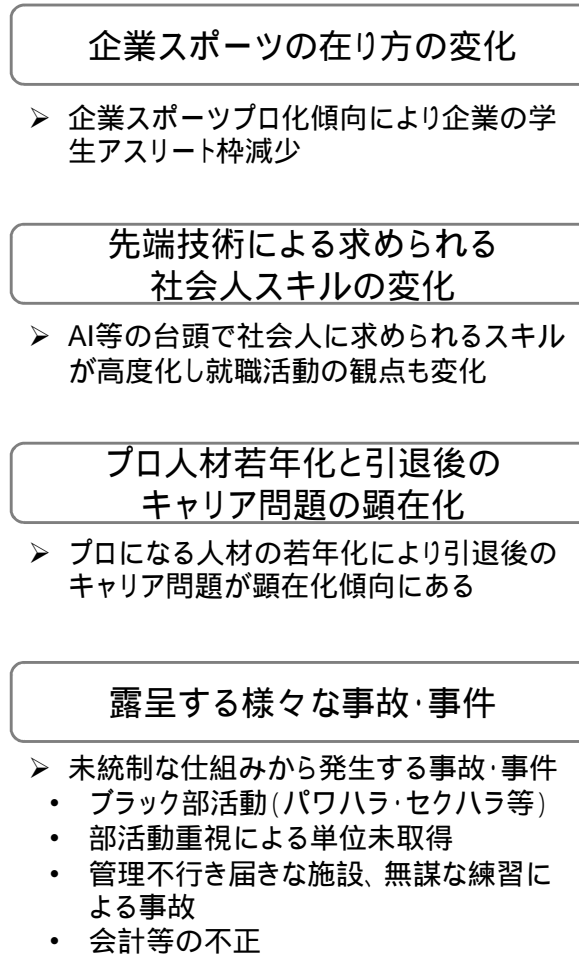
任意団体ながら人格形成を成し遂げスポーツ界のみならず社会に優秀な人材を輩出してきた部活動ではありますが、時代の変化と共に、「学業」と「安全(管理)」の面から部活動の在り方や支援方法を検討したいと思います。

## 学生アスリートを取り巻く環境の変化と問い

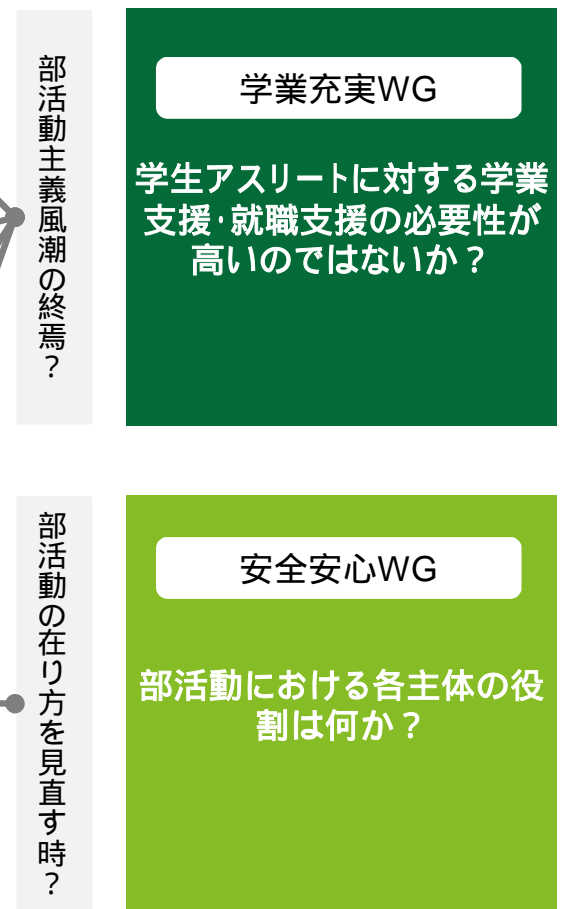
### 学生アスリートの現状



### 時代・環境の変化



### 問い



# 現状の想定課題と今後のあるべき姿(案)

安全安心WGでは、大学の部活動における安全性の確保や学生アスリートなど部活動に従事する人間が安心して活動できることを目指し、日本版NCAAがどのような支援を実施すべきかを議論していく予定です。

## 現状の課題と今後のあるべき姿(案)について

学生アスリートの現状・課題(仮説ベース)	今後のあるべき姿の方向性(案)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 安全に関するルールが不明確                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 安全管理における練習時間などについて、横断的な統一したルールが存在していない</li> </ul> </li> <li>■ 指導者の管理体制における差異                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 指導者毎に安全性に関する知識・経験に差が生じている</li> </ul> </li> </ul>	<b>安全管理 と部活動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大学スポーツ横断型の安全に関するルール設定                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 競技を問わず最低限アスリート学生の身体を守り、かつ安心して競技に専念できるような状態</li> </ul> </li> <li>■ 指導者への選定方法の管理や指導者の育成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 指導者の管理・指導不足による怪我・事故がなく、アスリート学生安心して競技に専念できるような状態</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 施設などの環境面の差異                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大学・競技により、老朽化した用具・器具などを使用し、怪我が生じている</li> </ul> </li> <li>■ 施設や器具の非管理                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 施設・器具の管理方法の徹底がなされていない</li> </ul> </li> </ul>	<b>環境 と部活動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新施設・器具などの供給                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 施設不足や老朽化した用具・器具の使用を原因とする怪我や事故がない状態</li> </ul> </li> <li>■ 施設や器具の使用ルールの徹底・管理                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 怪我・事故の削減を目的に、施設や器具の使用・管理の一元的なルールの策定</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ スポーツ保険加入者の管理体制の不備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 部員数などの管理が徹底されていないため、事故が起きた際に保険金が支払われないことがある</li> </ul> </li> <li>■ 活動費における会計の不透明さ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 活動費が不透明なため、会計面で安心がない</li> </ul> </li> </ul>	<b>お金 と部活動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 競技者への保険加入支援・部活動の管理体制構築                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 競技を問わず競技者の身体を守り、かつ安心して競技に専念できるような状態を目指す</li> </ul> </li> <li>■ 活動費の会計面での一元管理・ルール設定                             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 活動費が明確になり、効率的な資金用途を目指す。</li> </ul> </li> </ul>